

重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H465)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)7月12日石垣・構造合同WG資料に加筆

熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」
『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

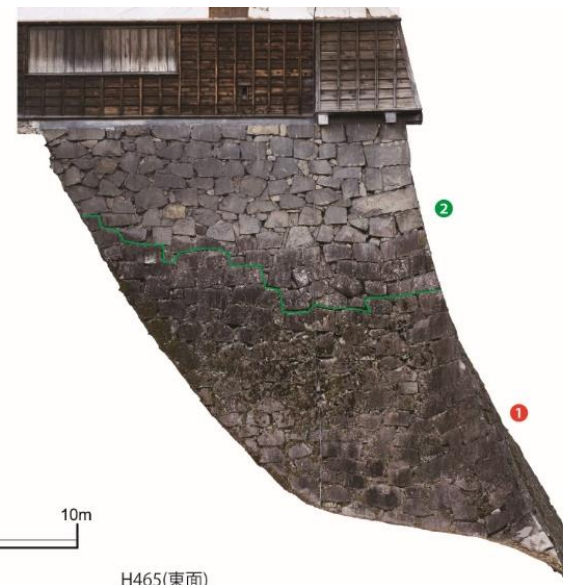
《石垣履歴把握について》

①熊本城石垣 6期(1632~1871年)【修理1】

築石部:横目地通りにくい→非方形を呈した築石を含む

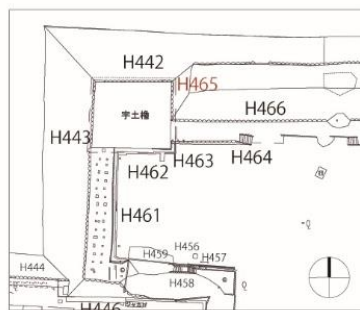
②熊本城石垣 6期(1632~1871年頃)【修理2】

築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い

H465(東面)
オルソ写真

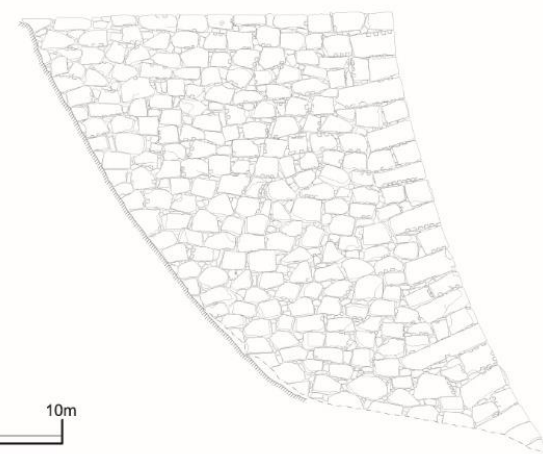
《参考:現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

元禄(1688~1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)
 宝永(1704~1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)
 宝暦(1751~1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)
 享保5年(1720) 木部部分修理(垂木墨書)
 文政9年(1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)
 明治17年(1884) 大規模?改修(明治十七年銘銘瓦)陸軍修理
 昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理、五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)
 昭和29~32年(1954~1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし
 昭和44年(1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替
 昭和60年~平成2年(1985~1990) 半解体修理



被害状況凡例

- | | |
|---------------|-------------|
| ● :変形(膨らみ・緩み) | ● :間詰石抜け |
| ● :突出・ズレ | ● :割れ・ヒビ |
| ● :凹み | ● :新補石材 |
| ● :剥落 | — :今回の崩落ライン |

H465(東面)
被害状況図

※被災直後の被害調査では「被害なし」
 ※近接での詳細調査は未実施。

『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

元禄 (1688~1704) 屋根吹替 (元禄銘瓦)
宝永 (1704~1711) 屋根吹替 (宝永銘瓦)
宝暦 (1751~1764) 屋根吹替 (宝暦銘瓦)
享保 5 年 (1720) 木部部分修理 (垂木墨書)
文政 9 年 (1826) 木部部分修理 (ネコギ墨書)
明治 17 年 (1884) 大規模?改修 (明治十七年銘鬼瓦) 陸軍修理
昭和 2 年 (1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理・五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工 (昭和 2 年銘棟札)
昭和 29~32 年 (1954~1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし
昭和 44 年 (1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替
昭和 60 年~平成 2 年 (1985~1990) 半解体修理

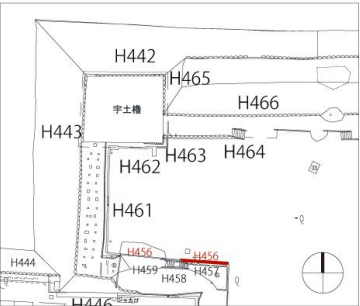
重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H456-2)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)11月7日石垣・構造・建築合同WG資料に加筆
熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」
『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

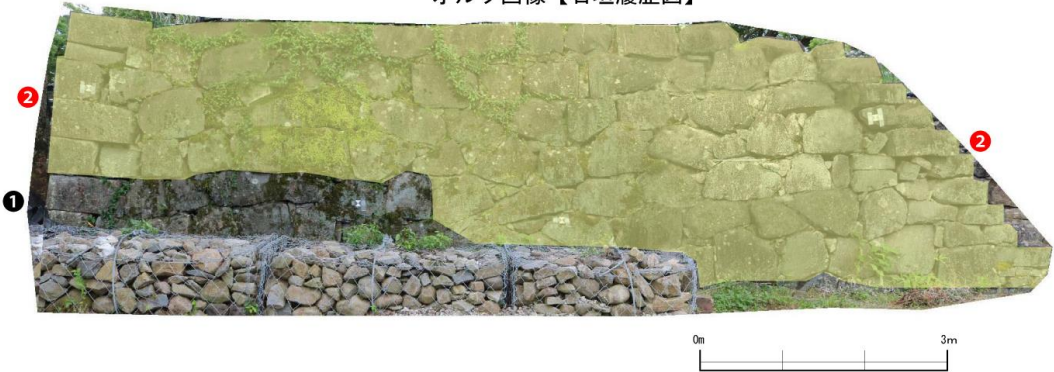
《石垣履歴把握について》
①熊本城石垣 4 期 (1611～1624年頃)【構築当初】か
②熊本城石垣 6 期 (1632～1871年頃)【修理 1】
築石部：横目地通りにくい→非方形を呈した築石を含む

平面図



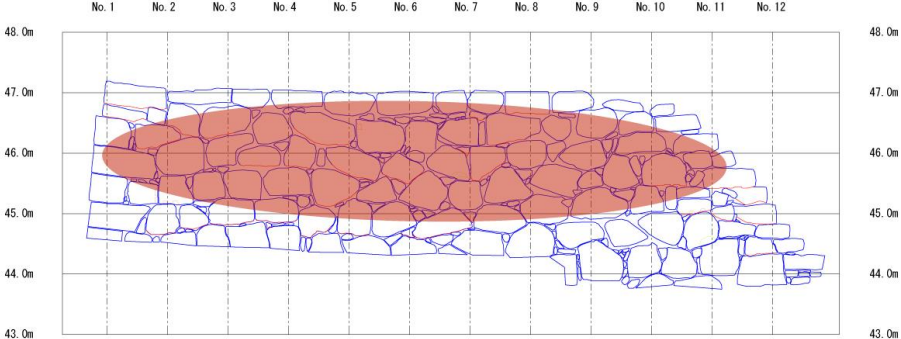
《参考：現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より
元禄 (1688～1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)
宝永 (1704～1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)
宝暦 (1751～1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)
享保 5 年 (1720) 木部部分修理(垂木墨書)
文政 9 年 (1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)
明治 17 年 (1884) 大規模?改修(明治十七年銘瓦)陸軍修理
昭和 2 年 (1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理、五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和 2 年銘棟札)
昭和 29～32 年 (1954～1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし
昭和 44 年 (1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替
昭和 60 年～平成 2 年 (1985～1990) 半解体修理

オルソ画像【石垣履歴図】

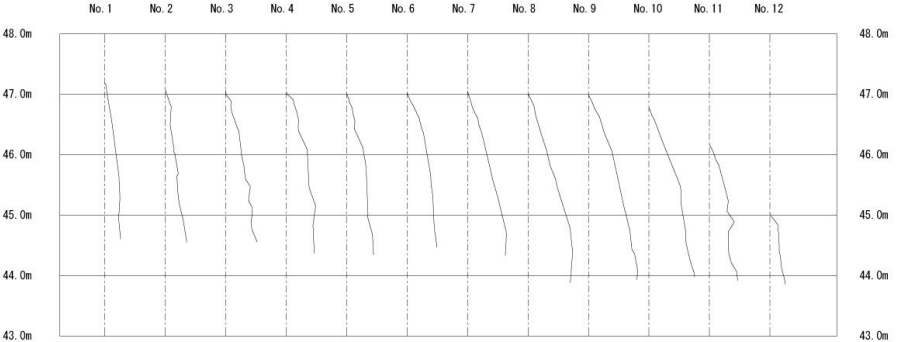


【被害状況図】

立面図



縦断面図

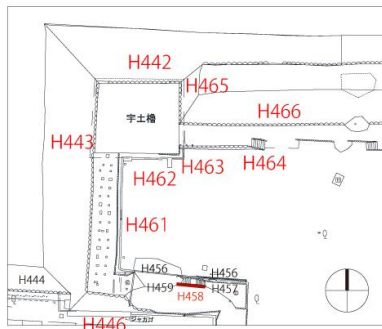


重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H458)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)11月7日石垣・構造・建築合同WG資料に加筆
 熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」
 『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

平面図



《石垣履歴把握について》

①熊本城石垣6期(1632～1871年頃)【修理1】

築石部:横目地通りやすい→方形を呈した築石を含む

②熊本城石垣7期(1871～1950年頃)【修理2】 ※明治22年(1889)以降の可能性大

築石部:横目地通りにくい→非方形を呈した築石を含む

《参考:現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

元禄(1688～1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)

宝永(1704～1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)

宝暦(1751～1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)

享保5年(1720) 木部部分修理(垂木墨書)

文政9年(1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)

明治17年(1884) 大規模?改修(明治十七年銘鬼瓦) 陸軍修理

昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理、五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)

昭和29～32年(1954～1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし

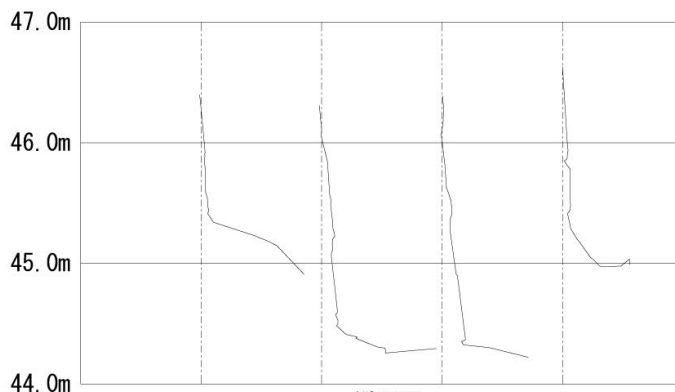
昭和44年(1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替

昭和60年～平成2年(1985～1990) 半解体修理

被害状況凡例

● :変形(膨らみ・緩み)	● :間詰石抜け
● :突出・ズレ	▼ :割れ・ヒビ
● :凹み	● :新補石材
● :剥落	— :今回の崩落ライン

No. 1 No. 2 No. 3 No. 4



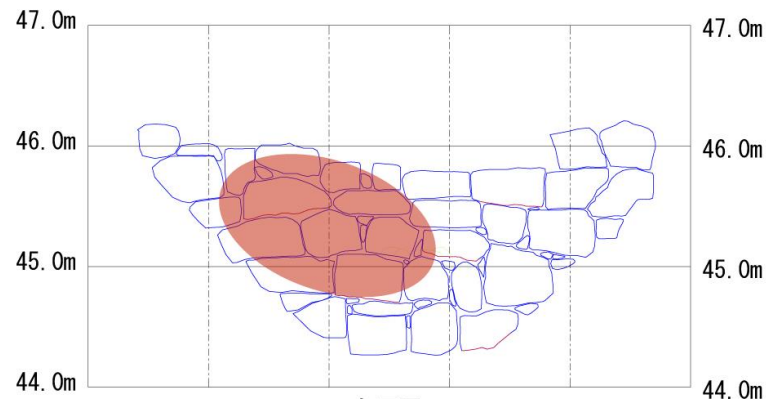
縦断面図

オルソ画像【石垣履歴図】



【被害状況図】

No. 1 No. 2 No. 3 No. 4



立面図

重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H461)

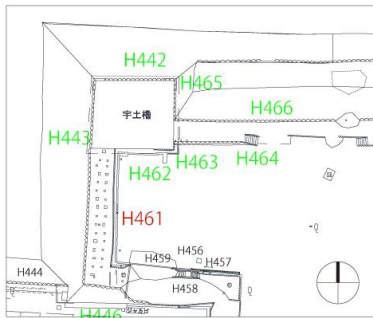
熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)11月7日石垣・構造・建築合同WG資料に加筆

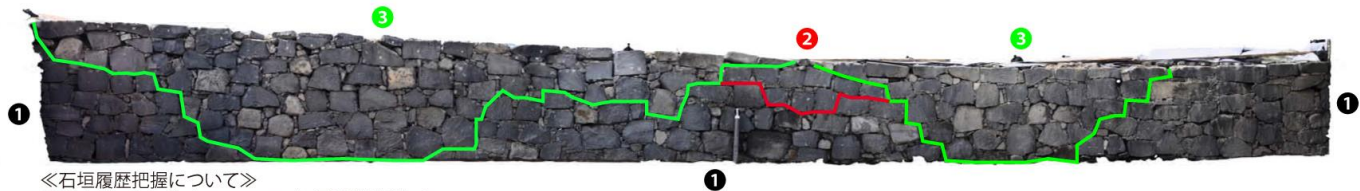
熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」

『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

平面図



オルソ画像【石垣履歴図】

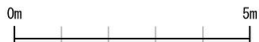


《石垣履歴把握について》

①熊本城石垣4期(1611～1624年頃)【構築当初】

②熊本城石垣5期(1625～1632年頃)【修理1】

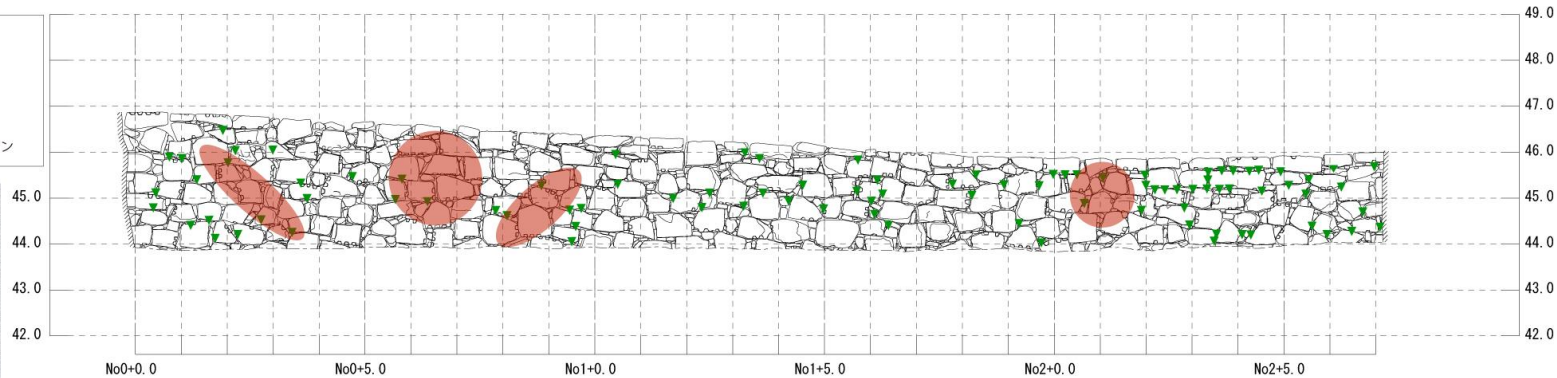
③熊本城石垣6期(1632～1624年頃)【修理2】築石部:横目地通りにくい→非方形を呈した築石を含む



【被害状況図】



▽: 割れ・ヒビ 状況写真



立面図



縦断面図

《参考: 現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

元禄(1688～1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)

宝永(1704～1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)

宝暦(1751～1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)

享保5年(1720) 木部部分修理(垂木墨書)

文政9年(1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)

明治17年(1884) 大規模改修(明治十七年銘鬼瓦) 陸軍修理

昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理・五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)

昭和29～32年(1954～1957) 五階櫓半解体修理・続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし

昭和44年(1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替

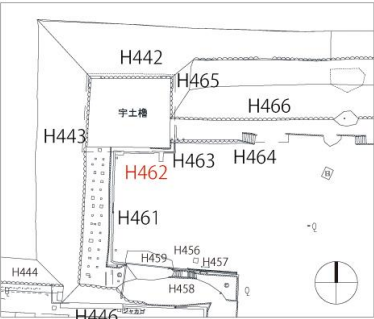
昭和60年～平成2年(1985～1990) 半解体修理

重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H462)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)11月7日石垣・構造・建築合同WG資料に加筆
熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」
『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

平面図



- 被害状況凡例
- 変形(膨らみ・緩み)
 - 間詰石抜け
 - 突出・ズレ
 - 割れ・ヒビ
 - 凹み
 - 新補石材
 - 剥落
 - 今回の崩落ライン

《石垣履歴把握について》

- ①熊本城石垣6期(1632～1871年)【修理1】
築石部:横目地通りにくい→非方形を呈した築石を含む
- ②熊本城石垣6期(1632～1871年頃)【修理2】
築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い

《参考:現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

元禄(1688～1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)
宝永(1704～1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)
宝暦(1751～1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)
享保5年(1720) 木部部分修理(垂木墨書)
文政9年(1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)
明治17年(1884) 大規模?改修(明治十七年銘鬼瓦)陸軍修理
昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理、五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)
昭和29～32年(1954～1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし
昭和44年(1969) 白蟻駆除、五階天井及び四階・一階柱一部取替
昭和60年～平成2年(1985～1990) 半解体修理

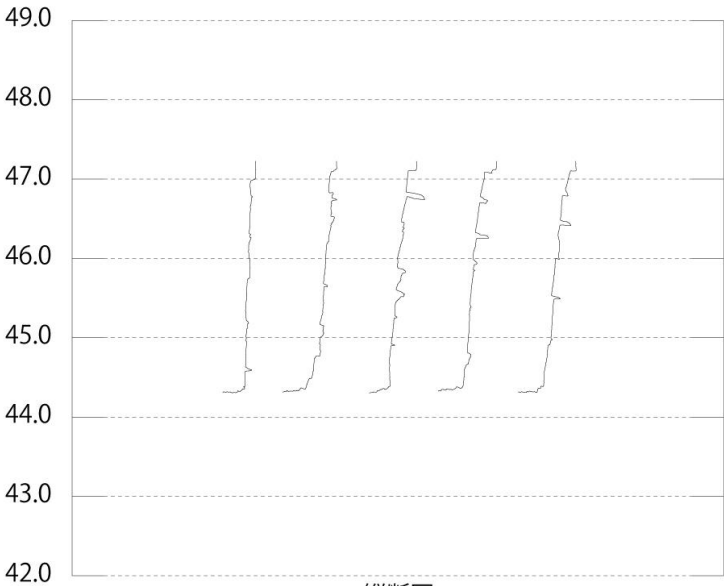
オルソ画像【石垣履歴図】



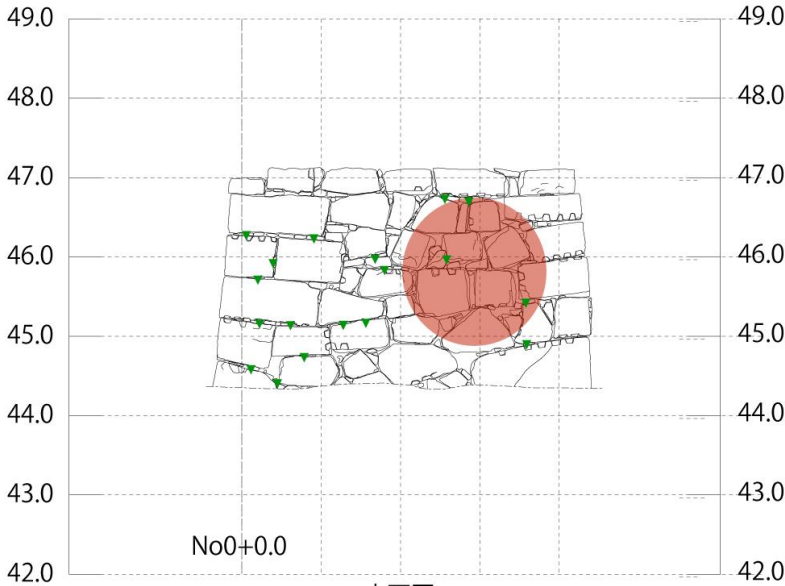
【被害状況図】



割れ・ヒビ 状況写真



縦断図



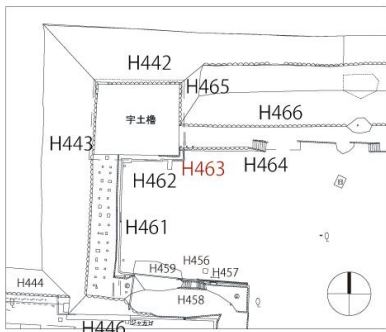
立面図

重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図(H463)

熊本城調査研究センター作成

令和元年(2019)11月7日石垣・構造・建築合同WG資料に加筆
 熊本市 2020 「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」
 『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編』第2分冊刊行後に詳細把握

平面図



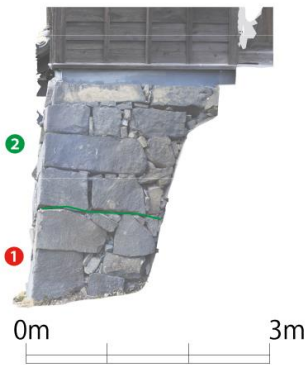
《石垣履歴把握について》

- ①熊本城石垣 6期(1632～1871年)【修理1】
築石部:横目地通りにくい→非方形を呈した築石を含む
- ②熊本城石垣 6期(1632～1871年頃)【修理2】
築石部:横目地通らない→サイズが不統一な方形を呈した築石多い

《参考:現存櫓履歴》 ※熊本市1990・2016報告書より

元禄(1688～1704) 屋根吹替(元禄銘瓦)
 宝永(1704～1711) 屋根吹替(宝永銘瓦)
 宝暦(1751～1764) 屋根吹替(宝暦銘瓦)
 享保5年(1720) 木部部分修理(垂木墨書)
 文政9年(1826) 木部部分修理(ネコギ墨書)
 明治17年(1884) 大規模改修(明治十七年銘瓦) 陸軍修理
 昭和2年(1927) 五階櫓解体修理・続櫓半解体修理・五階櫓基礎コンクリ・鋼製筋違施工(昭和2年銘棟札)
 昭和29～32年(1954～1957) 五階櫓半解体修理 続櫓解体修理・礎石据直し 石垣修理なし
 昭和44年(1969) 白蟻駆除・五階天井及び四階・一階柱一部取替
 昭和60年～平成2年(1985～1990) 半解体修理

オルソ画像【石垣履歴図】



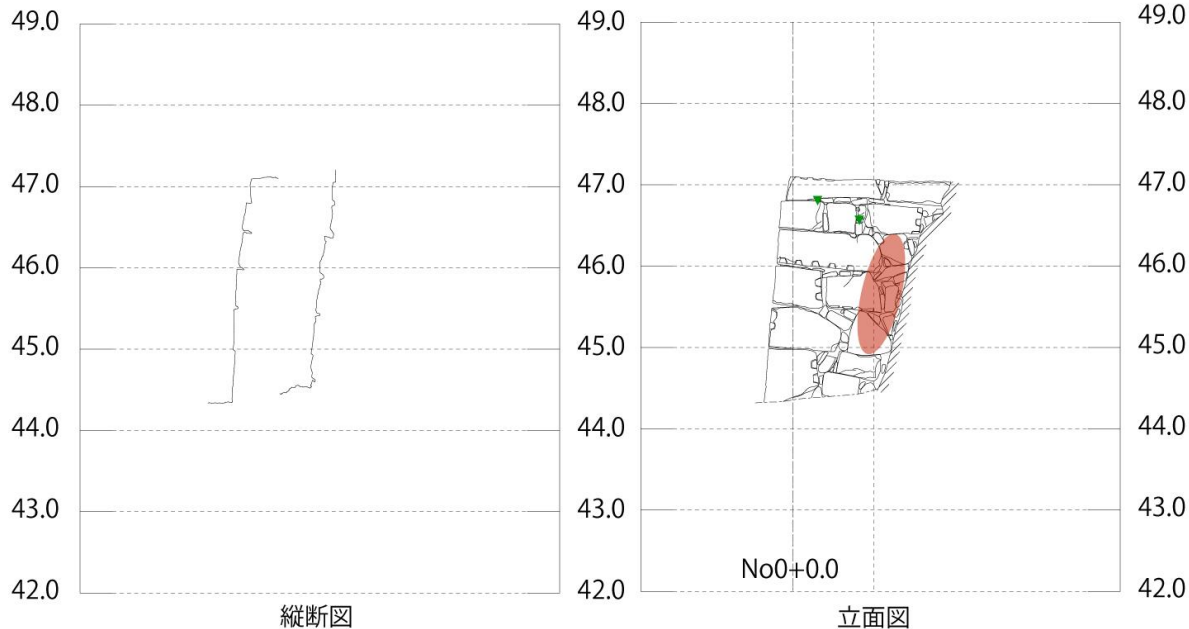
被害状況凡例

- :変形(膨らみ・緩み)
- :間詰石抜け
- :突出・ズレ
- ▼ :割れ・ヒビ
- :凹み
- :新補石材
- :剥落
- :今回の崩落ライン



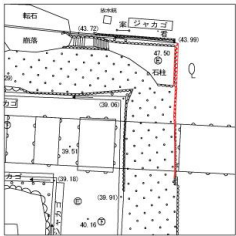
▼ :割れ・ヒビ 状況写真

【被害状況図】



重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴把握図(H455)

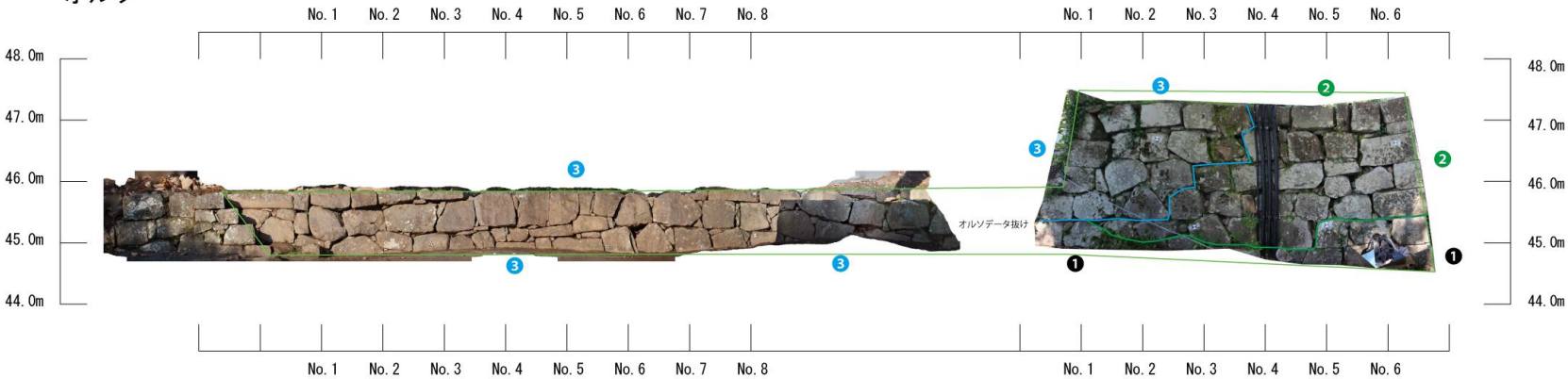
熊本城調査研究センター作成



《石垣履歴把握について》
①熊本城石垣4期(1611～1624年頃)【構築当初】
②熊本城石垣6期(1632～1871年頃)【修理1】
築石部:横目地通りやすい→方形を呈した築石を多く含む
③熊本城石垣7期(1871～1950年頃)【修理2】 ※明治22年(1889)以降の可能性大
築石部:横目地通りやすい→旧材の非方形を呈した築石を含む

被害状況凡例			
●	変形 (膨らみ・緩み)	○	間詰石抜け
■	突出・ズレ	○	割れ・ヒビ
■	凹み	■	新補石材
■	剥落	—	今回の崩落ライン

オルソ



立面図

